

巻頭言

慶應義塾大学商学部小野晃典研究会
第11期ゼミ長 内藤 節

ここに完成を見た『慶應マーケティング論究』という題目の論文集には、慶應義塾大学商学部小野晃典研究会第11期生一人ひとりの血と汗と涙の結晶である14編の卒業論文をはじめ、第11期生がチームとして取り組み、学内外において荣誉ある賞を受賞した論文や、日本国内にとどまらず海外においても高い評価を勝ち取った論文などが収められている。この論文集は、第11期生が小野晃典研究会で行った知的営為の集大成であり、決して朽ちることのない『宝』である。紙面の都合上、多くは語れないが、この『宝』が完成するまでの道程をここに記したいと思う。

2013年4月、バックグラウンドが全く異なる14名の学生が、「マーケティングを探究する」という共通意識のもとに集い、小野晃典研究会第11期が始動した。始動して間もなく、マーケティングに関する知識がほとんどない中でケース・メソッドを課された私たちは、その高すぎる壁を乗り越えられるか不安な気持ちになりながらも、自分たちが取りうるあらゆる手段を使ってケース・メソッドに取り組んだ。しかし、私たちが全力を持って導き出した解答は、先輩たちの批判の嵐にさらされ、私たちは始動後早々にして自分たちの未熟さを学んだのである。しかし、ここで自分たちの未熟さを学んだからこそ、その未熟さを克服するために、以後の活動に全身全霊をもって取り組めたのだらうと今になって思う。まるで矢のように過ぎていった自分たちの未熟さを克服するための成長の日々は、私たち一人ひとりの心に深く刻まれ、今でも色褪せることなく鮮明に思い起こすことができる。マーケティングに関する知識を貪欲に身につけようと、文献を穴があくほど熟読し作成した基礎文献レポート、先輩方のレクチャーのもと必死になって理解した多変量解析技法、自分たちの役職について納得いくまで議論した春合宿、ゼミ生が一丸となって戦い、勝利の美酒に酔った慶應義塾大学高田英亮ゼミナール・関西大学岩本明憲ゼミナールとのインカレディベート、『11』を模した猫が可愛いブルーのポロシャツを身に纏い戦ったソフトボール大会、76ページにも及ぶ夏ケースに夜を徹して取り組んだ夏合宿、3チームに分かれて励んだ三田祭論文執筆、その成果をパネル展示によって発表した三田祭ブース、各論文チームの活動の締めくくりとなる各報告会でのプレゼンテーション、見事に全国優勝を勝ち取った全国学生マーケティング大会、未来の後輩のために作り上げたオープンゼミ、学内の論文賞である商学会賞の受賞、大好きだった先輩・第10期生との涙の別れと可愛くて仕方がない後輩・第12期との出会い、教えることで自らの無知を知った第12期生へのレクチャー、予定通りには行えなかったものの素晴らしい出来だったと自負する夏ケース解題、何もかもが刺激的だった国際学会での研究発表、思いどおりにいかず何度も壁にぶつかりながらも皆で励まし合いながら取り組んだ卒論。

これらすべての活動が糧となり、今ここに『慶應マーケティング論究』という名の『宝』が完成したの

である。マーケティング研究という大きすぎる世界においてはかすんでしまうような論文集であるかもしれないが、私たちの目には、眩いまでに輝いて見える。私たちは、生みの親として、この論文集が少しでも多くの人の目に触れ、共感や批判をもって愛されることを切に願っている。

今ここに存在するこの論文集は、多くの支えなくして完成に至ることは決してなかったであろう。ここで論文執筆を支えてくださった方々に、深い感謝の意を表したい。

まずは、同研究会第12期の後輩の皆へ。私たちは、君たちへの指導を通して自分たちの無知を知り、それまでも増して勉学に励むことができた。この論文集を完成させることができたのは、純粹に私たちのことを慕い、応援してくれた君たちの存在があったからこそである。本当にありがとう。

次に、同研究会第10期の先輩の皆さんへ。論文を書くことに対して、右も左もわからなかった私たちに、優しく、そして時に厳しく指導してくださった先輩方がいたからこそ、論文を完成させることができたと思ふ。偉大な先輩方が作成した論文集を凌ぐ論文集を作成することによって、先輩方のご指導に報いようという思いがあったからこそ、論文執筆に対するモチベーションを高く保つことができた。本当にありがとうございました。

さらに、大学院生の千葉貴宏さん（第5期OB）、菊盛真衣さん（第7期OG）、白石秀壽さん（第9期大学院生）、林艶菘さん（第10期大学院生）、竹内亮介さん（第9期OB）、蒲英さん、韓貞烈さん、邱騰箴さん（以上、第11期大学院生）へ。常に、学部生に寄り添って、親身になってご指導して下さる大学院生の皆さんの存在があったからこそ、この論文集を完成させることができたのだと思ふ。本当にありがとうございました。

そして、家族の皆へ。論文執筆活動に没頭するあまり、帰宅が遅れたり、連絡が疎かになったりしてしまうことも多く、その度に、大いに心配をかけてしまったことであろう。それでも、私たちの論文執筆活動に理解を示し、陰ながら見守ってくれた家族の存在があったからこそ、全力で論文執筆活動に励むことができ、そして、この論文集を完成させることができた。本当にありがとうございました。

最後に、慶應義塾大学商学部教授の小野晃典先生へ。マーケティング研究の世界において、赤子同然の私たちに、父親のような愛情をもってご指導して下さった小野晃典先生に心から深く感謝の意を表したい。私たちが壁にぶつかり、出口の見えない暗闇の中で迷走しているとき、光が差す方向へと導いてくれたのはいつも小野先生であった。私たちの自主性と研究意欲を尊重しつつ、熱心にご指導して下さる小野先生の存在があったからこそ、私たちは何も恐れることなく論文執筆に励むことができた。そんな小野先生の学恩に報いるために、小野先生にとっての『宝』にもなるような論文集を作り上げたいという思いが、私たちの論文執筆に対するモチベーションを奮い立たせたからこそ、私たちは、この論文集を完成させることができたのだと思ふ。いま一度、小野先生の懇切丁寧なご指導に深謝したい。本当にありがとうございました。